

式 辞

厚生大臣挨拶

来賓祝辞

人口問題審議会会長

厚生省試験研究機関長会議代表

日本人口学会会長

国連人口基金事務局長

祝電披露

閉 式

記念講演 (14時30分～16時30分)

座 長

1. 人口資質の新しい問題点

東京大学名誉教授

2. 人口高齢化の諸問題

前人口問題研究所長

創立記念パーティー (17時～19時)

祝 辞 厚生事務次官

日本大学人口研究所教授

成城大学教授

河 野 稠 果 (人口問題研究所長)

戸井田 三 郎

山 本 正 淑

森 龍 男

村 松 稔

ナフィス・サディック (代理 安藤博文)

河 野 稠 果

青 井 和 夫

岡 崎 陽 一

吉 原 健 二

黒 田 俊 夫

濱 英 彦

第22回家族社会学セミナー

「今、家族に何が起きているのか」を総合テーマとした、第22回家族社会学セミナーは袖井孝子（お茶の水女子大学）実行委員長の御尽力によって1989年7月22～24日、小田原市のMRAハウス・アジアセンターで開催された。当研究所評議員の森岡清美（成城大学）、前評議員の青井和夫（流通経済大学）の両先生をはじめとする約150名の家族研究者が集まり、人口とも関係が深いテーマについて活発な議論が繰り広げられた。海外からもタマラ・ハレーブン博士（デラウェア大学教授、ハーバード大学人口研究センター研究員）が参加した。

初日の午後には長津美代子（青葉学園短大）と山田昌弘（東京学芸大学）の司会の下に第1セッション「若手研究者による研究発表」が開かれ、以下の5報告が行われた。

- 1 精神障害者の家族
大 島 巖 (精神保健研究所)
- 2 人生における出来事経験のコーホート間比較調査
嶋 崎 尚 子 (早稲田大学)
- 3 災害研究を通じての家族ストレス論の検討
木 下 栄 二 (東京都立大学)
- 4 現代の育児援助と育児ネットワーク
落 合 恵美子 (同志社女子大学)
- 5 家族における対処行動をめぐる研究
松 田 智 子 (大阪市立大学)

第2日目には以下の5報告があったが、このうちで最初の2報告は池田義孝（早稲田大学）と牧野カッコ（お茶の水女子大学）の司会の下に午前に行われ、最後の3報告は鈴木敏子（横浜国立大学）と渡辺秀樹（電気通信大学）の司会の下に午後に行われ、それぞれの報告について討論者による討論が続いた。

1 晩婚化の傾向／シングルズの増加——なぜ結婚をためらうのか？

報告者 小島 宏 (人口問題研究所)

討論者 服部 範子 (兵庫教育大学)

2 子どもをめぐる病理——家族の教育機能は低下しているか？

報告者 小川 捷之 (横浜国立大学)

討論者 庄司 洋子 (日本社会事業大学)

3 主婦の就労の増加——性別役割分業は変わるか？

報告者 岡村 清子 (東京都老人総合研究所)

討論者 山手 茂 (東洋大学)

4 離婚率の低下

報告者 湯沢 雍彦 (お茶の水女子大学)

討論者 野々山 久也 (甲南大学)

5 過疎地の高齢者世帯の現状——超高齢化社会の縮図

報告者 染谷 俣子 (鹿児島経済大学)

討論者 清水 新二 (精神保健研究所)

この日はさらに夕食後、総会が開かれた後、4組の世話人の下でテーマ別の「フリー・トーキング」のセッションが行われ、深夜まで活発な議論が続いた。

最終日の午前には「今、家族に何が起きているか——家族社会学はどう答えるか——」というテーマの下に総括討論が行われた。司会者は袖井孝子と本村汎 (大阪市立大学) の両氏で、討論者は青井和夫、上子武次 (甲南女子大学)、田村喜代 (同朋大学)、布施晶子 (札幌学院大学)、森岡清美の各氏であった。各討論者の発言の後、一般参加者も交えた討論が行われ、三日間にわたるセミナーの幕が閉じられた。ここでは家族への人口学的アプローチの重要性や社会学関係大学院での人口学教育の必要性を指摘する声もあった。なお、次回のセミナーは篠崎正美 (聖マリア短大) 実行委員長の下で1990年7月下旬に北九州で開かれる予定である。

(小島 宏記)

人口問題協議会・家族計画国際協力財団主催 シンポジウム「人口・女性・開発」を考える

人口問題協議会・家族計画国際協力財団主催、国連人口基金後援シンポジウム「人口・女性・開発を考える」が1989年7月14日(金)13時50分から17時30分まで東京・内幸町日本プレスセンターホールにて開催された。

まず元外務大臣大来佐武郎氏 (人口問題協議会長) の挨拶ののち、人口問題研究所長 河野稠果の「女性と人口問題」と題する基調講演があり、ついで映画ののち、荒木重雄 (NHKチーフディレクター) の司会のもと、西川潤 (早稲田大学教授)、樋口恵子 (東京家政大学教授)、松井やより (朝日新聞社編集委員) 各氏がパネリストとして参加したパネル・ディスカッション「人口・女性・開発を考える」が行われた。

(河野稠果記)

毎日新聞社・総合研究開発機構・国連人口基金主催 国際シンポジウム「人類生存への道」

毎日新聞社・総合研究開発機構・国連人口基金主催の国際シンポジウム「人類生存への道」副題「人口・環境・開発の調和をめざして」が1989年8月3日と4日東京・内幸町の日本プレスセンターで開催された。これは互いに密接な関係をもつ人口・環境・開発の問題を同時に視野に入れ、多面的に将来の人類のあり方を探った公開